

赤谷の 森だより

Akaya no moridayori



赤谷プロジェクト地域協議会
財団法人日本自然保護協会
赤谷森林環境保全ふれあいセンター

- 赤谷の森写真館 **カブトムシ採りの思い出** ②③
- 赤谷の森でわかったこと
「おいずまた小出俣自然再生試験地」..... 4-5
- サポーター活動の紹介
「ヤマビル対策」..... 6
- 自然観察オリエンテーリング..... 6
- 赤谷プロジェクトの活動..... 7
赤谷プロジェクト活動日誌／イベント情報
- 赤谷プロジェクトに望むこと 8
高原千葉村 阿部政英さん
- 赤谷プロジェクト、って? 8



樹液を吸うカブトムシ♂♀

2012年9月1日撮影／赤谷森林環境保全ふれあいセンター

a k a y a n o m o r i s h y a s h i n k a n

赤谷の森 写真館

カブトムシ採りの思い出

文・みなかみ町役場 環境課 小池俊弘

「カブトムシが欲しいから、デパートに連れて行って!」

ラジオから流れてきたCMを耳にした時、「そういう時代なのか、自分たちの頃は自転車で山に行って:」なんて思いつつ、ふと、子供に『カブトムシ採り』に連れて行ってと言われたら採りに行けるだろうか?と思いました。外灯巡りならともかく、山で採る自信はまったたくなく、こんなに自然豊かな町に住んでいながら生かせていない、伝えていない自分がちょっと寂しくなりました。

子供の頃、夏休みともなると、子供たちは自転車に乗って日課のように『カブトムシ採り』に行っていました。各地域には、「カブトの木」と呼ばれる採取のポイントがいくつもあり、友達よりちょっと早く起きて、競って採りに行きました。

時には高学年のお兄さん達を先頭に林道を走り、山や川に新たな「カ

ブトの木」を探しに出かけていきました。当時、木の種類の知識はないにもかかわらず、誰からともなくカブトのいそうな場所、いそうな木、いそうな臭いを教えられ、木に登ったり、揺らして落としたり、根元の土を掘ったりと、当たり前にカブトムシ採りを楽しんでいました。

『カブトムシ採り』に大人たちの出番はほとんどなく、地区や学校の先輩・同級生など子供の聖域で、「カブトの木」は引き継がれていきました。また、子供たちが地域で活動していたため、町内だけでも地区や学区ごとでカブトムシ、クワガタには様々な個性的な呼び名(別紙「みなかみ町におけるカブトムシ・クワガタの俗称」を参照)がつけられており、カブトを通じて子供たちが作る独自の文化のようなものが、知らず知らずのうちに芽生えていたように思います。

近年は少子化などの影響もあり子供たちが山に『カブトムシ採り』に行ったり、「カブトの木」の話を聞くこともほとんどなくなりました。また、生活の中にあつた里山も活用されず、『カブトムシ採り』に適当な大きさの木や環境も少なくなつて来ているように感じます。

みなかみ町では昨年、「みなかみ町自然環境及び生物多様性を守り育てるため昆虫等の保護を推進する条例」を制定致しました。この条例により、貴重な財産である自然環境や生物多様性の保全活動などを行う地域や団体を指定して支援、また、昆虫などの乱獲を制限することで、里山などの保全活動をバックアップしています。

『カブトムシ採り』をはじめ、子供の頃、自然の中で遊んだ思い出をふりかえり、身のまわりの自然環境や生物多様性の保全についてあらためて考えてみるはいかがでしょうか。



樹液を取り合うカブトムシ♀



ハイポーズ!のミヤマクワガタ♂



図鑑の表紙に使えるカブトムシ♂



見つかった!カブトムシ♂

みなかみ町におけるカブトムシ・クワガタの俗称

一般的な名称	地域での俗称	地区名	備考
カブトムシ	カブト	全域	カブトムシ・クワガタの総称として「カブト」と呼ぶ場合がある。オスのカブトムシを指す事が多い。
	マグソ	全域	カブトムシのメスだけを指すことが多い。地域によっては「マグソのオス」「マグソのメス」と分けて呼ぶ。
	マグソカブト(マグソツカブト)	全域	オスのカブトムシを指す事が多い。
	マグ	古馬牧学区	オスのカブトムシを指す事が多い。
	アカカブト	水上地区の一部	オスのカブトムシで赤みがかった個体のもの。
ミヤマクワガタ	ミヤマ	水上地区	オスのミヤマクワガタを指す。
	ウマ(ウンマ)	新治・桃野学区	メスは「ウマのメス」と呼ぶ。
	バケ	古馬牧学区	メスは「バケのメス」と呼ぶ。
ノコギリクワガタ	ウシ	新治・月夜野地区	オスのノコギリクワガタ。
	スイギュウ	古馬牧学区	大型の個体のものを指す。
	ノコギリ(ノコ)	水上地区	ノコギリクワガタのオスを指す。
	カミキリ	猿ヶ京地区	小型でアゴが曲がっていない個体のもの。
	アカウシ	新治・月夜野地区	赤みがかった個体のもの。
ヒラタクワガタ コクワガタ アカアシクワガタ	ヒラタ(ヒラ)	全域	ヒラタクワガタのオスを指す。
	コクワ	全域	コクワガタのオスを指す。
	アカアシ	全域	アカアシクワガタのオスを指す。
	ゾウリ	新巻地区	
	ジョウリ	新治・月夜野地区	ヒラタクワガタ、コクワガタ、アカアシクワガタなど、小型のクワガタを総称して呼ぶ場合が多い。
(その他) メスクワガタ	ジョリン(ジョウリン)	須川・入須川学区	
	タケダ	猿ヶ京学区	
(その他) メスクワガタ	ダンゴ	月夜野地区	メスのクワガタを総称して呼ぶ場合が多い。
	コテ	猿ヶ京学区	またメスは、それぞれの俗称に「○○のメス」としても呼ばれている。
クワガタ全体	オニムシ	全域	高齢の世代の方による呼び方。カブトムシ・クワガタを総称して呼ぶ場合と、クワガタを総称して言う場合がある。最近はほとんど聞かれなくなった。

※このデータは一部からの聞き取りによるもので、俗称の一例です。



ちょっとめずらしいアカアシクワガタ♂



樹液を吸うヒメオオクワガタ♀



俺が!ノコギリクワガタ♂



アオカナブンがいっぱい。



みんなで仲良く樹液を吸っています。



ノコギリクワガタ♀が飛んでいる瞬間

赤谷の森でわかったこと

スギの人工林を自然林に戻す 実験を始めました

図1の写真、何だかわかりますか？ ミステリーサークル？ それともナスカの地上絵ならぬ赤谷の地上絵？ いえいえ違います。これは、スギの人工林を自然林に戻すための伐採実験地を山の上から撮影したものです。場所は小出俣です。

赤谷の森は、ブナやミズナラが優占し、イヌワシ、ツキノワグマなどの多様な生きものたちが暮らす豊かな森だったと考えられています。そのため赤谷プロジェクトでは、スギなどの人工林を本来あった自然林に戻すために、スギなどを伐採し、木を植えずに自然の回復力を生かした自然林の復元を進めています。しかし、こ

日本自然保護協会

藤田 卓

のような取り組みは始まったばかりで、日本ではそのための手法はありません。

そこでプロジェクトでは、伐採する時の広さや形、自然林との位置関係などを変えながら、どの方法が自然林の復元に有効かを調べています。また、伐採した後、自然林に生息・生育していた植物・鳥類・昆虫がどのように戻ってくるのかを調べています。

伐採前の調査結果から、スギの人工林と自然林に生育・生息する植物・昆虫・鳥の種類や数は、大きく異なっていることがわかりました。たとえば鳥類ではオオルリ、キビタキやキツツキ類、昆虫ではマガタマハンミョウ（飛ばない甲虫）などが、自然林にのみ出現し、地上を歩



図1. 実験のためスギ伐採した小出俣試験地

く昆虫の種類数や個体数は人工林よりも自然林の方が多く、ブナやコナラの芽生えは自然林のすぐ近くに偏って生育していました。

伐採後1年が経過した今、芽生えが出てきましたが、本来あった自然林に戻るまでは数十年、数百年かかるかもしれません。何十年後に

試験地で確認された 鳥類・哺乳類

オオルリ

夏に日本にやってきて、冬は東南アジアなどに渡る夏鳥。自然林や渓谷近くの森林に出現する鳥の代表選手



ツキノワグマ

試験地内（自然林）のセンサーカメラに写ったツキノワグマ（2011年6月15日）

スギ人工林の様子



伐採前

2011年自然林復元100年調査会の様子



伐採後

20m幅皆伐区かいばつの伐採後の状況（2011年8月）



図2. 伐採前（2011年）のブナの芽生え調査の結果
（湘南学園理科部の調査結果に基づく）

本来の自然林に回復するのか、どの伐採方法が最も効果的なのかなどを検証するための調査は、今後も長く続けていく必要があります。そこで、この試験地では、専門家だけでなく、地域住民やボランティアの方たちの協力を得て調査を行っています（「赤谷自然林復元100年モニタリング調査会」「ブナ・ミズナラの芽生え探し」。伐採前のブナ、ミズナラの芽生え探しには、湘南学園理科部の皆さんが協力してくれました（図2参照）。

このように、この森の10年後、20年後、100年後の姿を多くの方々に見守っていくための機会を、今後とも作っていきます。みなさんも一度この試験地に遊びに来てください。

サポーター活動の紹介

成功したヤマビル対策

赤谷プロジェクトに参加し、森の中で作業を行うようになり、ヤマビルの被害を防ぐ方法を調べるようになりました。

そこで、同じ被害が問題になっている神奈川県丹沢地域での対策報告書を見つけました。そこには被害拡大を防ぐ方法として、人が歩く道の落ち葉を取り除くと効果があると、書かれていました。

実際に丹沢で、竹ぼうきや熊手による落ち葉除去作業に参加し、ヤマビルの行動範囲は約 1m ほどで、寒さにも弱く、落ち葉がないと冬を越せないことを、学びました。

そこで赤谷プロジェクトでも 1 年をかけて、本拠地のいきもの村で、落ち葉の影響や温度によるヤマビルの行動を調べました。

その結果、落ち葉を取り除いた場所では、ほとんどヤマビルはいなくなることを確かめました。初冬に落ち葉を取り除いておけば、その効果は、次の年の秋にまた落ち葉が降り積もるま

で続きま

した。その後、赤谷プロジェクトのメンバーで、猿ヶ京温泉の遊歩道の一部で落ち葉除去作業を実施し、山ビル被害軽減に役立てることができました。

落ち葉が肥料として役に立っていた頃は、落ち葉は再利用され、自然に山ビルの生息域が広がらなかつたのですが、これからは、特別に除去作業として行う必要があります。

(坂口・星野)



ヤマビル対策 (落ち葉掃き作業)



ヤマビル

新治小学校サマースクール

自然観察オリエンテーリング

平成 24 年 7 月 23 日高原千葉村内で、新治小学校 5 年生 50 名を対象に、自然観察オリエンテーリングを開催しました。

観察会は地域協議会、日本自然保護協会、赤谷森林環境保全ふれあいセンターが協力して指導に当たりました。

自然観察オリエンテーリングは、5 班に分かれて 5 つのポイントを順番に回りながら、自然のしくみについて学習します。5 人の解説者から、それぞれのテーマで個性を生かした解説を聞きました。

●第 1 ポイント (栗田担当)

テーマ「森林の贈物」

木材などの利用について、森林と人間生活との関係を利用の面から学習しました。

●第 2 ポイント (長浜担当)

テーマ「植物の発芽等」

ドングリなどの種子を観察し、種子を運ぶため、風や昆虫などを利用し共存している関係を利用しました。

●第 3 ポイント (林担当)

テーマ「アリジゴク」

ウスバカゲロウの幼虫を観察し、生きるための工夫を学びました。

●第 4 ポイント (出島担当)

テーマ「森に生きる動物」

赤谷の森に棲む動物の存在を、フィールドサインなどから観察する方法を学びました。

●第 5 ポイント (石坂担当)

テーマ「森の分解者」

落ち葉をめくり、落ち葉が菌類とキノコなどを通じて分解されて土に帰ってゆく様子を、学びました。

最後に子供たちと歩きながら数人に質問しました。「いっぱいお話がありましたね、いちばん印象に残ったお話は何ですか?」「アリジゴク!」という結果でした。林さん、おみごと!



アリジゴクの説明の様子

赤谷プロジェクトの活動

6月～9月 赤谷プロジェクト活動日誌

活動日	活動内容	活動場所
6月2日	千葉市立草野中学校自然環境学習	高原千葉村
6月3日	平標山山開き	平標山の家
6月22日	調整会議(第1回)	利根沼田広域観光センター
7月18日	旧三国街道マップづくり学習会(第2回)	旧三国街道
7月23日	新治小学校サマースクール	高原千葉村
7月26日	平成24年度群馬県総合教育センター研修講座	いきもの村ほか
8月21～23日	センサーカメラ一斉調査	赤谷の森全域
8月22日	夏休み親子ふるさと体験	川古温泉周辺の広河原
8月25日	猿ヶ京赤谷湖上花火大会	猿ヶ京温泉
8月26日	21世紀の森フェスティバル	群馬県立森林公園「21世紀の森」
9月5日	高崎経済大学ゼミナール	いきもの村ほか
9月8日	赤谷の森でブナ・ミズナラの芽生を探そう	小出俣自然再生試験地
9月12日	旧三国街道マップづくり学習会(第2回)	旧三国街道
9月25日	新治小学校遠足	旧三国街道
9月27日	新治地区茂倉沢治山事業施設整備計画調整検討委員会(平成24年度第1回)	さいたま市大宮区

- 各ワーキンググループ会議
環境教育(第2回)6月5日、植生管理(第1回)6月11日、溪流環境復元(第1回)7月2日、猛禽類(第1回)8月30日、環境教育(第3回)9月7日、植生管理(第2回現地検討)9月13～14日
- 赤谷プロジェクト地域協議会会合
6月8日、6月10日、8月5日、9月4日
- 赤谷の日(いきもの村ほか)
6月2～3日、7月7～8日、8月4～5日、9月1～2日
- 猛禽類調査(赤谷の森全域)
6月1・15・23・24・30日、7月1・14・15・16・20・29・30日、8月25・26・28日、9月6・8・9・20日
- ホンドテンモニタリング調査(赤谷の森全域)
6月2・21日、7月15・16・25・28日、8月5・11・18・19・26日、9月2・15・16・22～23日
- 溪流環境調査(赤谷の森全域)
8月3・24日、9月21日

参加者募集



茂倉沢2号ダム

第2回 AKAYAプロジェクト現地説明会開催

地元の皆様を対象とした第2回AKAYAプロジェクト現地説明会を開催します。今回は、溪流環境を復元する取り組みをご紹介します。2009年に茂倉沢で行った治山ダムの中央部を撤去する試みは、イワナやカワネズミなど溪流にくらす生き物の生息環境と、防災の両立を目指す取り組みです。

- 【主催】AKAYAプロジェクト
- 【後援】みなかみ町
- 【日時】2012年11月26日 13:15～16:30
- 【集合】13:15 川古温泉手前駐車スペース
- 【その他】溪流沿いを歩きますので長靴のご用意をお願いします。

赤谷の森自然散策

冬芽の観察とアニマルトラッキング

募集中!

森林土壌の一人者、ミスター森林土壌として知られる長島成和さん(約30年間、森林土壌のプロフェッショナルとして活躍)の指導のもと、数十種類の樹木の冬芽をルーペで見たり、カッターで切ったり、匂いを嗅いだりしながらその特徴をつかみ、落葉期の樹木の見分け方を学ぶことができます。

講義の後には、いきもの村周辺にて、スノーシューで歩きながら、雪上でのアニマルトラッキング&冬芽の観察を行います。どんな発見があるのか!サプライズを期待しましょう。



- 【実施日】平成25年2月17日(日)
- 【集合場所・時間】関東森林管理局(前橋市)9時出発 → 利根沼田森林管理署(沼田市)9時50分出発 → 終了時間15時30分(現地)
- 【募集対象】小学4年生以上(小中学生は保護者同伴)
- 【参加費】無料 先着30名
- 【服装など】自然散策ができる服装(防寒着、長袖、帽子、長靴雨具、飲み物等)
- 【申し込み先】赤谷森林環境保全ふれあいセンター
TEL0278(60)1272
- 【募集締切】平成25年2月8日(火)

赤谷プロジェクトに望むこと

人と自然が 共生できる環境へ

高原千葉村

阿部 政英



「仙ノ倉山に七人衆が現れたら田植え時期」。この先人の残した土地暦からもうかがえるように、私たちの生活は自然とともに営まれてきたものですが、冷涼なこの地でも冷房設備が必要になり、冬は雪不足も懸念されます。人里にもクマが出没し、サルやイノシ

シによる農作物の被害が深刻化するなど、自然環境の変化を肌で感じるようになってきています。

さて、当施設における赤谷プロジェクトへの関わりですが、当施設には、毎年、千葉市立中学校の2年生が訪れ、さまざまな体験学習をしています。そのメニューのひとつとして、赤谷センターの環境教育プログラム「いきもの村自然体験」や利根沼田森林管理署の間伐体験などを取り入れています。

センサーカメラによる野生動物の生態観察や丸太切り体験は、日頃自然に触れることの少ない子供達には興味深い貴重な体験であり、自然環境への関心を高めるためのよいきっかけとなっているものと考えています。

赤谷プロジェクトの活動も9年目を迎えますが、このプ

ロジエクトの継続的な取り組みが、冒頭に述べたような問題の起こらない、人と自然とが共存できるバランスのとれた環境の構築に活用されることを期待しています。

赤谷プロジェクト、って？

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者がともに活動するという、全国的にもめずらしい取り組みです。

活動地域は、旧新治村三国山脈に広がる、約1万ha(10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから、「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生きものの調査・研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第一土・日曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



本誌や赤谷プロジェクトに関してのお問い合わせは、こちらへどうぞ！

赤谷プロジェクト地域協議会

代表幹事 林 泉
TEL.0278-66-0888
事務局長 安田 剛士
TEL.0278-22-2119
<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>

(財)日本自然保護協会

プロジェクト担当 出島 誠一
TEL.03-3553-4107
<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局 赤谷森林環境保全ふれあいセンター

所長 廣橋 潤
TEL.0278-60-1272
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp